

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1170800898		
法人名	ケアサポート株式会社		
事業所名	グループホーム ケアサポートこしがや		
所在地	埼玉県越谷市東越谷6-15-11		
自己評価作成日	令和5年5月9日	評価結果市町村受理日	令和5年6月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 ケアマネージメントサポートセンター
所在地	埼玉県さいたま市中央区下落合五丁目10番5号
訪問調査日	令和5年5月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

同敷地内にはデイサービスやショートステイが併設されており、隣接している小学校からは子どもたちの声が聞こえる賑やかな施設が特徴です。一年を通して季節を感じていただけるよう、毎月の行事には力を入れています。運営理念で掲げているように、入居者様一人ひとりが、家庭的な雰囲気の中で「その人らしく、ゆったり、のびのびと」暮らしていただけるよう、「入居者様目線」のケアに取り組んでいます。「自立支援」の4つのケアを大切に、ご家族様や医療機関と連携を取りながら、入居者様が最期まで「その人らしく」過ごすことができるよう支援していきたく思います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

・「その人らしく、ゆったり、のびのびと」の理念のもと、集団生活の中でも個々の生活習慣やペースに合わせた対応で一人ひとりを支援されている。また、職員間においては上下関係の壁がなく、コミュニケーションが良好で、職員の定着に繋がっている。  
 ・運営推進会議は、コロナ禍で対面での開催が困難となる中、書面開催で事業所の活動や利用者の様子を書面にまとめ、会議のメンバーに届けることで代替えとされている。また、アンケートを実施し、いただいた意見は事業所運営に役立てられている。  
 ・目標達成計画については、前年度は厚労省通知の要件を満たし、外部評価の実施は緩和されたものの、ラインアップで情報を共有され、緊急事態への具体的な対応策を引き続き検討課題とされている。また、外出した際には写真や動画で家族へ周知し、利用者の喜びや楽しさを発信され取り組まれていることから、目標が達成されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「報恩奉仕」を運営理念に掲げ、毎月のGH会議時に、理念に沿った入居者様へのケアが出来ているか情報共有を行い「その人らしく、ゆったり、のびのびと」生活して頂けるよう実践している。	理念のほか、4つの基本方針を念頭に自立支援を意識した介護に取り組み、アットホームな環境作りや自分らしい生活が継続できるように努められている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣への散歩や、隣接された小学校の子どもたちや、近隣の住民の方が描いた絵を事業所内に飾るなどして交流を図っている。	隣接小学校との交流や散歩時の挨拶のほか、インスタグラムを通じて事業所の様子やイベント情報などを公的機関へ発信されている。今後は認知症を学べる場を小学生たちに提供したいと取り組み方法を検討されている。	インスタグラムを通じて公的機関だけでなく、地域向けの発信を行うことで、地域交流がより深められることに期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍の為、2か月に1回「郵送」による運営会議を実施している。支援の方法等、アドバイスをお願いされることもあり、情報提供することで地域貢献できるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	郵送による運営推進会議にて、入居者様の状況や取り組みについての報告を行い、レクリエーションのアイデアをいただくなど、サービス向上に活かしている。	事業所の活動内容を主とし書面開催されている。自治会長や民生委員、地域包括職員へは郵便等で送付され、いただいた意見・要望から面会室での面会や家族との外食、外泊など、サービス向上に活かしたいと検討されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	ケアサービス内容や事務的なことなど、市役所担当者にお伝えし、協力関係を築いている。	コロナ禍により研修などは中止となっているが、更新時や相談ごとで市へ出向かれた際は、事業所の状況をお知らせし情報共有が図れるように連携されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月に1回「身体拘束廃止委員会」を開催。グループホーム会議を通して、身体拘束防止の為の研修を行い、身体拘束「0」に取り組んでいる。現時点での身体拘束の事例はない。	身体拘束委員会で身体拘束の具体的な行為や不適切ケアについて学ばれている。年1回、個別アンケートに基づき職員自らの振り返りが行われ、職員全員で身体拘束ゼロに向けた取り組みが実施されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に1回「虐待防止委員会」を開催。グループホーム会議にて勉強会を実施し、情報共有を行い虐待を未然に防ぐよう努めている。		

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	グループホーム会議にて、権利擁護についての勉強会を行い、関係各所の方々と交流できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時に個々に説明をし、契約内容の変更や介護保険改定時と同様に、電話連絡や案内文を送付するなど、事前に説明をして同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に1回「CS調査」を実施し、調査結果を集計、ご家族様からのご意見やご要望を反映させている。またご家族様が来所された際は、積極的にコミュニケーションを図っている。	利用者とは日々のケアの中で聞き取られ、家族からは食事内容や利用者の様子を知りたいと要望がありグループホーム新聞やInstagramで発信されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の運営会議やグループホーム会議の場で、提案できる機会を設けている。また年2回の「人事考課」の際に、面談する機会を設け意見を聞いている。	職員一人一人の目線を大切に、提案された内容は即、検討され、ケア方法、言葉のかけ方やイベント企画などに反映されている。また、地域向け認知症への取り組み方法を発信したいと検討されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	「人事考課制度」を導入するとともに、向上心を持って働けるよう資格取得の際の「貸付制度」も実行している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員に対しては「OJT制度」を取り入れている。また全職員、会社内外問わず研修に参加できる機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大型レクリエーションのお手伝いや会社内での研修への参加など、同敷地内にある他事業所職員と関わる機会を多く持っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日々の様子などを「カナミック」を用いて記録している。ご本人様のご要望を職員間で共有し、ご家族様やご本人様の意向を出来る限り実現していけるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	体調不良や何かあった時だけでなく、来所の際にも近況等をお伝えすることで、信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時までには、ご本人様やご家族様の意向や希望などの話し合いの場を設け、ケアプランを作成している。また訪問歯科や訪問リハビリなどのサービスも取り入れており、必要に応じて利用していただいている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「自立支援」を基盤に、可能な限りご本人様に行っていただき、必要な部分をお手伝いさせていただきまたは一緒に行うよう支援し、良好な関係性を築くよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	受診や必要物品の購入、依頼については、ご家族様と情報共有し、ご都合が悪い時などは代行にて対応することで、ご家族様との繋がりをなくさないようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で面会制限を行っていたため、ZOOMでのオンライン面会や、短時間での相談室での面会にて、ご家族様やご友人様との関係を継続できるよう支援している。	友人との手紙のやり取り、ユーチューブで昔の歌を聴く、併設デイサービスと合同での餅つき大会参加など楽しみが継続できるように支援をされている。今後は感染症の動向を見ながらデイサービスと合同のカラオケ大会の再開を検討されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事席の配慮や声掛け等で、入居者様が孤立しないよう努めている。		

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現状、退居された方からのご相談等はないが、ご本人様やご家族様からのご要望があれば対応できる体制は整えている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常のケアや会話の中で、ご本人様の思考を汲み取り、職員間で共有、グループホーム会議等で検討している。	利用者の話は積極的に聴かれ、ちょっとした表情から思いの把握に努められている。できること、できないことを見極め、気づいたことは職員間で話し合い、その後の支援方法や利用者の希望に繋がられている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に実態調査を行い、ご本人様、ご家族様や前任のケアマネジャーから生活歴などの情報を収集し把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	カナミックにて、個々の入居者様の日々の様子などを記録、申し送り等で把握し、職員間で共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成者や居室担当者が中心となり、職員や医療機関からの意見や提案を取り入れながらケアプランを作成している。	居室担当者から聞き取られた情報をもとに、医療関係者からも意見をいただき、毎日その人らしく、ゆったりと楽しく過ごせることを大切に介護計画書が作成されている。計画内容は申し送りで共有し、職員間の漏れを防いでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	特記事項についてはカナミックに記録し、モニタリングやグループホーム会議などで状況を把握し、ご本人様の状態に応じてケアプランの見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	基本的にはご家族様に受診をお願いしているが、緊急の場合など、ご本人様やご家族様の状況に応じて可能な限り柔軟に対応している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍により、地域資源の活用は出来ていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医に受診するか、ホームの協力医療機関にするかの選択をしていただいている。ご本人様の状況やご家族様のご要望に応じて、かかりつけ医からホームの協力医療機関への移行にも柔軟に対応している。	かかりつけ医や専門医受診時は、家族に口頭で伝えられ、受診後は家族から聴かれた内容を記録し職員間で共有されている。協力医療機関から紹介状をいただき受診される場合もあり、安心のできる受診に繋がられている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護と24時間オンコール対応にて、看護師に情報を伝え、常時相談できる体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の医療機関と情報共有し、早期退院に向けての支援体制を整えている。また退院前にも担当者と連携し、医療機関との関係づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期については、ご本人様、ご家族様の意向を確認し、状況に応じた協力体制を整えている。	看取り経験もあり、状況変化に応じて医療職の指導のもと、利用者、家族の希望に応じた対応がなされている。また、産業医の力を借りながら、家族の心のケアにも努められている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成しており、急変時や事故発生時に備えて、救急救命講習会の開催、AEDの使用方法を習得する機会を設けるなど、全職員が緊急時の対応ができるように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に地震や水害等の災害を想定した避難訓練を実施している。地域との協力はコロナ禍のため出来ていない。	利用者へ事前連絡なしに火事と水害を想定した避難訓練が実施されている。ハザードマップから避難場所や避難経路を確認しているが、救助袋がうまく活用できなかったことが課題となっている。	職員へはラインアプリで連絡されていますが、職員だけでは十分とはいえず、運営推進会議や認知症の勉強会などを通して近隣住民の方々の協力が得られる体制作りに期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様に寄り添い、一人ひとりに合わせた声掛けやケア、距離感にも配慮した対応をするよう努めている。	年1回、サービスマニュアル研修が実施され、接遇や心得を学ばれている。利用者は人生の先輩であることを常に念頭に置き、距離が近づきすぎないように心掛け、集団生活の中で嫌な思いをしないように、一人ひとりを尊重した対応で支援をされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様の意思を尊重し、出来る限り自己決定ができるよう働きかけている。自己決定ができない入居者様には、ご希望が言いやすいよう配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	職員側が優先されることはあまりないが、入居者様のご希望に添えない場合もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時は身だしなみを整え、入浴時はご本人様に選んでいただいたり、好みに合わせたものを選択するよう心掛けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	おしぼりの準備や食事の盛り付け、下膳、食器洗いや食器拭きなど、食事に関する一通りのことは出来る範囲で入居者様にお手伝いをお願いしている。	おしぼり配りや、盛り付け、食器洗いなどを手伝っていたりしている。週1回イベント食があり、おやつ作りでは、ケーキのトッピング用フルーツのカットや駐車場でバーベキューなども楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を記録し、職員間で共有している。状態の変化が見られた際は、医療機関に相談しながら支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛けやお手伝いさせていただくなどして、毎食後口腔ケアを行っている。また必要に応じて、訪問歯科を利用させていただくなどの支援を行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	カナミックにて一人ひとりの排泄パターンを職員間で共有し、尿意、便意を示さない入居者様には定時トイレ誘導を行い、ほぼ全員がトイレで排泄できるよう支援している。	薬に頼らない自然排便のために食事や水分に注意をされ、見守りを重視したケアに努められている。できることは行っていただき、適切な声掛け・誘導によりトイレでの排泄が継続されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の入居者様には、水分摂取や腸の蠕動運動を促すなどの支援を行っている。また必要に応じて主治医の相談し、薬の処方依頼している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回、個別対応にて入浴を行っている。午前中希望の方など、出来るだけ入居者様の意向に添えるよう配慮している。リフトや機械浴の設置がないため、ご自身で浴槽に入れない入居者様についてはシャワー浴にて対応している。	利用者の身体状態を把握し、職員複数で対応されるなど個々に合わせて支援をされている。また、好みに応じた湯の温度や季節浴も楽しまれている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様一人ひとりに合わせ、必要に応じて休息をとっていただいている。また昼夜逆転傾向にある入居者様には、日中に活動的に過ごしていただき、夜間の安眠に繋げられるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルや個人ファイルに薬情を挟み、更新毎に情報共有を行っている。また処方変更等があった際は、記録で共有し、状態の変化の観察に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事やレクリエーション、散歩や花の水やりなど、入居者様一人ひとりの役割や楽しみを見つけて喜んでいただけるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出できていないが、少人数で散歩やドライブに出かけている。5月8日からの規制緩和以降は、外出、外食の機会を設け、出来るだけご本人様の希望に添えるよう支援していく。	コロナ禍から外出の機会が制限されているが、花壇の手入れや水やり、バーベキューなどに取り組まれ、施設周辺の散歩では写真を撮りラインアップりや広報誌、手紙などで家族へ伝えられている。	



## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人様、ご家族様と相談し所持されている方はいるが、基本的に貴重品の持ち込みはご遠慮いただいております、使う機会はない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	施設内の固定電話を使用するのやり取りや、リモートでの面会をしていただく等の支援を行っている。携帯電話の持ち込みについての制限は設けていない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	定期的に環境整備を行い、季節に応じた壁飾りや、入居者様と一緒に創った制作物を展示するなど、居心地よく過ごしていただけるよう配慮している。	シンプルな環境で、フロアではタブレットゲームに参加される、利用者同士で会話を楽しまれている。また、一人静かに過ごされている方など思い思いにゆったりと過ごされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お一人で過ごされたい入居者様は自室にて過ごされている。廊下にベンチが備え付けられており、入居者様同士が交流できるようになっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に家具や寝具、愛用品など、馴染みのものを持ち込んでいただき、ご本人様の意向に合わせた居室作りを行っている。	愛着のある家具や寝具等を自由に持ち込まれた居室は、利用者が過ごしやすいように作られ、自分の部屋としてゆっくりくつろげるように配慮がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置、整理整頓をして動線を確保している。また居室前には表札をつけ、ご自身で居室を把握していただけるよう配慮している。		

(別紙4(2))

事業所名: グループホーム ケアサポートこしがや

## 目標達成計画

作成日: 令和 5年 6月 22日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。  
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	コロナ禍により、外出の機会が減り、地域との関わりが希薄になっている。	コロナ5類移行に伴い、今後は積極的に散歩や買い物、外食など地域へ赴き、交流を図り、認知症への理解を深めていく。	「回覧板」に施設のパンフレットなどを入れさせていただき、認知症の方が入居されている施設であることを積極的にお伝えしていく。	12ヶ月
2	35	施設での「避難訓練」に関しては、定期的を実施しているが、実際に災害が起こった場合、地域との協力体制が必要不可欠になり、関わりを含めて検討、改善していく必要がある。	近隣住民の方や消防、警察との連携し、災害時には、地域全体で協力し合える体制を整えていく。	事業所内での「避難訓練」のみならず、地域の「避難訓練」に参加していき、災害時における対応などを協議していく。	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。